

平成 27 年度第 5 回  
鹿島地区新高校  
設置準備委員会  
(資料)

平成 28 年 3 月 23 日  
佐賀県教育委員会

# 目次

	頁	
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)第4回新高校設置準備委員会報告まとめ・・・・・・・・・・	1
資料 2	学科の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
資料 3	教育課程、校時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
資料 4	校務分掌、各種委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
資料 5	平成 27 年度の検討結果まとめ及び平成 28 年度以降の 検討スケジュール	21
資料 6	鹿島地区新高校 校舎制における各校舎への生徒配置について・	25
資料 7	新高校設置準備委員会設置要領・・・・・・・・・・・・・・・・	34
資料 8	鹿島地区新高校設置準備委員会委員構成・・・・・・・・	36
資料 9	鹿島地区新高校設置に向けた検討体制・・・・・・・・	37

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

第4回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 12月25日（金） 15時～16時30分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成28年 1月 7日（木） 9時55分～11時30分 塩田工業高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 9人 県教育委員会関係委員 6人
唐津地区 ・ 巖木高校	平成28年 1月 7日（木） 15時～16時30分 巖木高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 8人
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成28年 1月12日（火） 15時05分～16時35分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成28年 1月15日（金） 10時～11時45分 伊万里商業高校 会議室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人

2 主な意見等

地区	主な意見等
鹿島地区	<p>新高校の学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通科の5学級を維持することはできないのか。</li> <li>・ 高校入試の時に、異なる大学科で第2志望まで志願することはできるのか。</li> <li>・ 平成30年度の新高校の募集定員280人を40人×7学級ではなく、35人×8学級の少人数学級編制にできないか。</li> <li>・ 生徒指導上の課題がある場合などは少人数学級編制の効果があるようだが、進学校の場合は40人編制で競争させた方が効果が高いという話を聞く。</li> </ul> <p>校舎制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校舎の名称は、「赤門学舎」と「大手門学舎」が個性的でいい。</li> <li>・ 1年次は現在の鹿島実業高校の校舎、2,3年次は食品調理科以外は現在の鹿島高校の校舎に移るようにすると、学校としての一体感も醸成しやすいのではないか。</li> <li>・ 校舎制は「当面」とあるが、最終的には1つの校舎になるのか。</li> </ul> <p>新高校の教育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校行事や部活動等、学校活動のレベルを高めて、新高校で学ぶプライドを醸成できるよう、作業部会で具体的に検討をしてほしい。</li> </ul>

地区	主な意見等
嬉野地区	<p>「めざす学校像」について 事務局案のとおり承認</p> <p>新高校の学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嬉野高校から専門学科への改編が提案されたが、就職などを考えると有利なのではないかと思うので賛成である。</li> <li>・ 選択科目の多い総合学科を小規模で維持することは難しいと考え、入学してくる生徒に一番良い教育を提供したい思いから、専門学科への改編を提案している。</li> <li>・ 工業科の小学科の定員を、少人数にする案が出ているが、職員数は変わらないと負担が大きくなるのではないか。</li> <li>・ 少人数の学科編制の検討を含めて、事務局で現実的かどうか検討してもらい、次回の設置準備委員会で報告してほしい。</li> </ul> <p>校舎制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校舎制は無駄が多いと思える。校舎制という小規模の中で、社会人として必要なコミュニケーション能力等を育成できるのか。</li> <li>・ 部活動は新高校の特色づくりに果たす役割が大きく、活動場所や移動手段等をはっきりと示す必要がある。</li> <li>・ 校舎制は半永久的か。できるだけ早く1つの校地にすることを希望する。</li> <li>・ 校舎制にして、本校と分校に分けるといったことはないのか。</li> </ul>
唐津地区	<p>校時表について 事務局案のとおり承認</p> <p>教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新高校に入学してくる生徒の学力はこれまで以上に差があると思われるので、カリキュラムにも幅を持たせる必要がある。</li> </ul> <p>地域連携検討状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験学習のための作業所等を探す中では、市民センターも協力しなければならないと思っている。分校跡地なども活用する必要があるれば、相談に応じる。</li> </ul> <p>教育相談、生徒指導体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校の発達障害のある子どもについては、通級指導教室でのソーシャルトレーニングが効果を上げている。新高校ではそういう教室との情報共有を図ってほしい。</li> <li>・ 教職員の資質向上として行われる予定の定期的な外部専門家等による校内研修会については、特別支援教育の事業も活用できる。</li> </ul> <p>施設、設備について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エアコンや電子黒板未設置教室への電子黒板の設置などについて、考慮をお願いしたい。</li> </ul>

地区	主な意見等
	<p>教職員等の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太良高校のように学習支援員の配置が必要だと思う。</li> </ul>
杵島地区	<p>新高校の学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 30 年度の募集学級数 5 学級の内訳は事務局案のとおり、普通科 3 学級、商業科 2 学級でよいか。</li> </ul> <p>事務局案のとおり承認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通科の文理特進クラスは、文系の生徒と理系の生徒が 1 つのクラスにいるわけだから、授業は 2 つに分けることになり、教職員数が足りなくなるのではないか。対応として、文理特進クラスを 2 クラスにしてはどうか。</li> <li>・ 商業科の会計コースでは英語を重視するという説明があったが、普通科の総合進学クラスと会計コースで英語を一緒にするという事は考えられないか。</li> <li>・ 総合選択制が可能になれば、普通科の生徒で経済学部や商学部に進学したい生徒は商業校舎で学ぶなど他にない特色を与えられると思う。</li> </ul> <p>校舎制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の移動には経費がかかるので、その試算をする必要がある。県がどのくらい負担できるかで、バス移動を伴う部活動の合同練習の回数なども決まっていくのではないか。</li> <li>・ 校舎制はデメリットが大きく、生徒にも先生にも迷惑がかかる。早く一緒に校地にした方が良い。</li> </ul>
伊万里地区	<p>産業界からの意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経理とパソコンを扱える能力は企業でも、農業経営にも必要である。</li> <li>・ 森林工学科の「林業」については、佐賀県の中でどう構築するのが問題である。</li> <li>・ 地場産業の育成にさらに取り組むためには、昔のように、農業は農業、商業は商業ということでは競争に負けるのではないか。農業科と商業科が一緒になって、という思いがある。</li> <li>・ 教育環境をしっかりと整えて、希望のある学校になるようにしてほしい。</li> <li>・ 地方創生が叫ばれる中、伊万里の偉人とか歴史とかも勉強させて、伊万里に残って仕事をしてくれる人が多くなるような教育をしてほしい。それには、企業誘致も必要なので行政にも力を出してほしい。</li> </ul> <p>学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数学級編制を実施している高校もある中で、新高校 200 人の定員を、農業科 100 人、商業科 100 人とできないか。</li> <li>・ 例えば、募集は農業科と商業科をまとめて行い 1 年次に共通科目を履修させ、2 年次以降に専門科目を集中させれば必要な単位数は修得できると思う</li> </ul>

地区	主な意見等
	<p>が、それは可能か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 融合学科にはいろいろな形があるということだが、新しいコースの模索はできるのか。</li> </ul> <p>校地について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリックコメントの結果では、伊万里商業高校が適地だという意見が多く、以前の計画でも伊万里商業高校が適地だとされていた。</li> <li>・ 伊万里商業高校がいい環境だということについて異論はないが、農業関係では実習があり、実習をどうするのかについては問題がある。</li> <li>・ 校舎制について、他県の事例はわかったが、どのくらいの期間やっているのか。</li> </ul>

### 3 第5回新高校設置準備委員会の開催について

伊万里地区以外は3月18日(金)から3月29日(火)の間で日程調整を行い、開催する予定である。(伊万里地区の第5回新高校設置準備委員会は、当初の予定通り、来年度開催する。)

## 新高校の学科構成

### 1 新実施計画（第1次）における新高校の学科についての基本的な考え方

「現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。」こととしている。

#### <平成27年度現在の学科の状況>

学校	大学科区分	小学科	学級数(1学年あたり)	定員(1学年あたり)	コース分け等
鹿島高校	普通科		5学級	200人	2年次より、文系・理系コース
鹿島実業高校	商業科	商業科	1学級	40人	2年次より「商品開発コース」 「会計コース」
		情報処理科	1学級	40人	2年次より「ビジネス情報コース」 「情報管理コース」
	家庭科	食品調理科	1学級	40人	コース設定なし

### 2 平成30年度～平成32年度の学級数（募集定員）の見通し

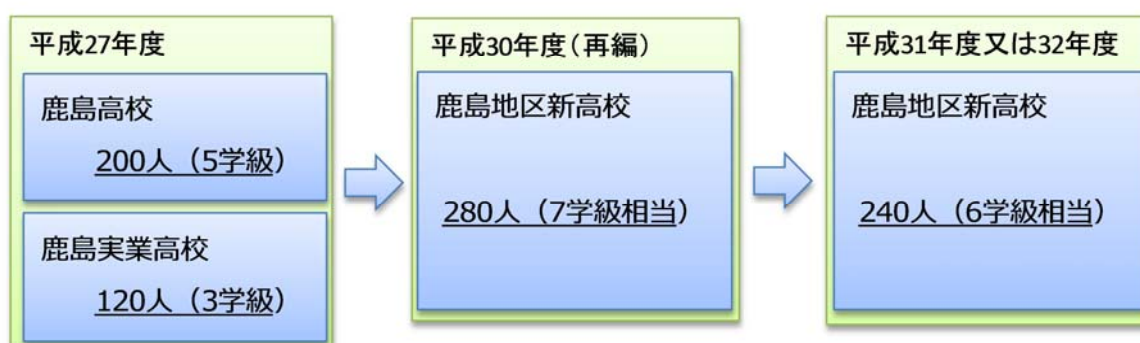
鹿島・藤津地区の再編後の学級数（募集定員数）については、以下の見込である。

鹿島地区 平成30年度 1学年280人（7学級規模）

「鹿島・藤津地区については、生徒数の減により、平成31年度及び平成32年度に、さらに募集定員を各40人（1学級相当）減じる必要があると見込んでいる。」

（新実施計画 第1次 より）

#### <鹿島地区新高校 募集定員の流れ（見込）>



### 3 新高校の学科・学級編成について

#### (1) 第4回設置準備委員会で出た意見

- ・ 普通科の5学級200人を維持することはできないのか。他地区からの流入も考慮すべき。
- ・ 平成30年度の新高校の定員を40人×7学級ではなく、35人×8学級にできないか。
- ・ 前回の委員会で、普通科と専門学科から40人ずつ減らすパターンである程度合意を得たと理解している。ただ、35人学級などは全く可能性がないのか。
- ・ 生徒指導上の課題があるような学校は、少人数学級編制による手厚い指導が効果があるようだが、進学校の場合は40人の学級編制で競争をさせた方が効果があると聞いている。少人数だから「手厚い指導」と一概には言えないと考える。

#### 参考 第3回設置準備委員会で出た意見

##### 学科構成について

- ・ (平成33年度までの80人の定員減について) 専門学科からのみ減じると、専門学科の定員が40人になり、地元に残る者が少なくなるのではないかと。しかし、専門学科を全く減らさないというのも、卒業後の進路確保が気になるところだ。
- ・ 「めざす学校像」で示された大きな方向性に近づくためには、どういった学科の体制が一番いいのか。普通科と専門学科から40人ずつ減らすパターンが現実的と思う。ただ、どちらを先に減ずるにしても、理由の整理が必要である。
- ・ 普通科のレベルを維持するためには、普通科の定員減も必要だし、資料を見ると、商業科と食品調理科は残していかなければいけないと思う。
- ・ 定員は普通科と専門学科から40人ずつの減が妥当だろう。
- ・ 組合せは、普通科160人、商業科40人、食品調理科40人が良いのではないかと。
- ・ 普通科と専門学科から40人ずつの減が現実的。
- ・ 最終的には、普通科と専門学科から40人ずつの減で、商業科の中に情報処理科を一括し、食品調理科を残す方が良くないか。
- ・ 新たな学科の検討も必要ではないか。

##### 学級減のタイミングについて

- ・ 第1回目の進路希望調査の結果を見ると、先に専門学科を減じる方がいいのではないかと。
- ・ 普通科のレベルを落とさないためには、普通科を先に減じた方がいいのではないかと感じるが、いずれにしてもいろいろな角度から考えなければならず、時間がかかるのではないかと思う。
- ・ 学級数は生徒のニーズを踏まえて検討すべき。
- ・ 平成30年度の定員40人減について、普通科20人減、専門学科20人減というパターンにできないか。そして、平成31年度か32年度に、もう40人減る時も普通科20人減、専門学科20人減にしたらどうか。



(2) 第3回・第4回設置準備委員会における意見から見た少人数学級編成の課題

学級編成がどのようになったとしても、募集定員数が減となることには変わりがないので、募集定員の減に応じて標準法に基づいて配置される教員数も減少することになる。

しかし、20人ずつの減や、35人学級の形で少人数編成学級とすると、学級数は現状と変わらないため、必要になる担任数や総授業時間数も現状のままである。

結果的に、配置教員数が減った分の授業持ち時間数が純増となるため、教員の負担が大きくなる。

あるいは選択教科等の授業開講数を減らして、総授業数を減じることも考えられるが、いずれにしても教育の質の低下を招く恐れがある。

教員の加配を付けるとしても、平成30年度、31年度に5地区で同時並行的に再編を進めており、校舎制に伴う教職員の不足も見込まれる中、各地区で単一の加配を行うのは、県の予算的には大変厳しい状況があり、加配を前提とした計画策定は難しい。

参考 標準(40人)学級と少人数学級編成の不足教員数比較

(不足数 = 「各学科の現行教育課程に基づき試算した最低必要教員数」 - 「標準法に基づき試算した教員配置数」)

平成30年度、平成31年度に40人ずつ減じた場合の予測される不足教員数比較

パターン	年度	H30	H31	H32	(単位:人)
40人単位減 (標準)	不足数	1	3	5	
	学級数	23学級	21学級	19学級	
20人ずつ減 (少人数)	不足数	1	3	9	
	学級数	24学級	22学級	20学級	
35人学級 (少人数)	不足数	1	3	9	
	学級数	24学級	22学級	20学級	

20人ずつ減と35人学級の場合の学科構成は、現行のままで試算  
40人単位減の学級減はH30 情報処理科 H31 普通科の順で試算

平成30年度、平成32年度に40人ずつ減じた場合の予測される不足教員数比較

パターン	年度	H30	H31	H32	H33	(単位:人)
40人単位減 (標準)	不足数	1	2	6	5	
	学級数	23学級	22学級	20学級	19学級	
20人ずつ減 (少人数)	不足数	1	6	13	9	
	学級数	24学級	24学級	22学級	20学級	
35人学級 (少人数)	不足数	1	6	13	9	
	学級数	24学級	24学級	22学級	20学級	

20人ずつ減と35人学級の場合の学科構成は、現行のままで試算  
40人単位減の学級減はH30 情報処理科 H32 普通科の順で試算

少人数学級編成とした場合、平成31年度又は平成32年度の減、いずれの場合も、平成32年度に教員の不足数が、40人単位学級と比較して大きく上回る。特に平成32年度に2回目の学級減を行う場合は、平成31年度及び平成33年度についても、少人数学級編成の教員数の不足が非常に大きくなる見込みである。

学級数を見ると、全学年で学級数が揃う年度(平成33年度又は平成34年度)以外は、いずれの年度も少人数学級編成の学級数の方が多くなる見込みであり、その分教員の授業持ち時間数は増加する。

(3) 学科編成・学級編成に当たって考慮すべき事項

学科	考慮すべき事項																																																																		
普通科	<p>現在鹿島高校普通科では、ほとんどの生徒がセンター試験を受験している状況（5教科型受験者数で、H28年192人、H27年190人、H26年196人）であり、現状の進学指導体制を維持するためには、最低限、地歴や理科の選択科目（地歴3科目、公民1科目、理科4科目）が全て選択できるような教員配置が必要となる。</p> <p>また、超難関大学、難関大学に向けた進学指導においては、習熟度別少人数指導や個別指導が不可欠であり、それが可能となるような教員配置が必要である。特に難関以上の大学では、地歴や理科等についても選択科目ごとに習熟度別の指導が必要となるケースが出てくるため、小教科も複数名ずつの配置が望ましい。</p> <p>普通科を先に減じた場合、再編後の学科のバランスにより、普通教科を担当する教員数の減が、専門学科よりも大きくなることにより、受験に必要な科目であっても教員が配置されない教科が出てくる可能性がある。そうなった場合、再編1年目の段階から、主に専門学科で普通教科の授業を担当する普通科の教員も、難関・超難関も含めた普通科の進学指導を行わなければならないケースが出てくると想定されるが、それらの指導にはある程度の経験や研鑽が必要であり、その準備のための期間を確保することができない。</p> <p>一方、普通科の減を後にした場合、再編当初の普通教科を担当する教員数の減が専門学科程は大きくなりえないため、より長い期間、現体制に近い形で進学指導を行うことが可能であり、その間に主に専門学科で普通教科の授業を担当する普通科教員が進学指導を経験したり、進学指導に関する研鑽を積むなど、進学指導に向けた準備を行う時間を確保することが可能となる。</p>																																																																		
情報処理科 (商業科)	<p>商業科及び情報処理科の生徒の進路先の傾向において、際立った違いは見受けられず、専門分野である高卒後の情報通信産業系への就職状況は、鹿島実業高校のみならず全国・全県ともに非常に低水準である。</p> <p>近年の全県的な情報処理科の志願状況は、定員割れとなることが多くなってきている。（H26入学生～H28.11月予備調査までの平均倍率0.96倍）</p> <p>したがって、現在、商業科とくくり募集をしている情報処理科の減を後にした場合、H30年～H33年にかけて見込まれている大幅な生徒減により、さらに志願者が大きく減少する可能性がある。</p> <p>一方、情報処理科が一定期間存続（H30～H32又はH33）することで、その期間の標準法上の教員配置数が2増、実習助手の配置数が1増となるため、教員の負担を若干軽減することが可能である。</p> <p><b>&lt;参考1&gt; 県内県立高校情報処理科全体の志願倍率推移</b></p> <table border="1" data-bbox="456 1576 1398 1727"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">H26入学生</th> <th colspan="3">H27入学生</th> <th colspan="3">H28入学生</th> <th rowspan="2">平均</th> </tr> <tr> <th>9月</th> <th>11月</th> <th>一般</th> <th>9月</th> <th>11月</th> <th>一般</th> <th>9月</th> <th>11月</th> <th>一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>倍率</td> <td>0.90</td> <td>0.81</td> <td>1.08</td> <td>1.04</td> <td>0.95</td> <td>0.93</td> <td>0.98</td> <td>0.96</td> <td>1.11</td> <td>0.97</td> </tr> </tbody> </table> <p>網掛けは1.00倍未満 鹿島実業の情報処理科は商業科とのくくり募集のため除外</p> <p><b>&lt;参考2&gt; 情報処理科を後に減じた場合の教員数増減 (情報処理科を先に減じた場合との配置数比較)</b></p> <table border="1" data-bbox="483 1908 1121 2056"> <thead> <tr> <th rowspan="2">情報処理科 減の年度</th> <th colspan="2">H30</th> <th colspan="2">H31</th> <th colspan="2">H32</th> <th colspan="2">H33</th> </tr> <tr> <th>教</th> <th>実</th> <th>教</th> <th>実</th> <th>教</th> <th>実</th> <th>教</th> <th>実</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H31年減</td> <td>+2</td> <td>+1</td> <td>+2</td> <td>+1</td> <td>+2</td> <td>+1</td> <td colspan="2" rowspan="2">/</td> </tr> <tr> <td>H32年減</td> <td>+2</td> <td>+1</td> <td>+2</td> <td>+1</td> <td>+2</td> <td>+1</td> <td>+2</td> <td>+1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(教：教諭数、実：実習助手数) 単位：人</p>		H26入学生			H27入学生			H28入学生			平均	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	倍率	0.90	0.81	1.08	1.04	0.95	0.93	0.98	0.96	1.11	0.97	情報処理科 減の年度	H30		H31		H32		H33		教	実	教	実	教	実	教	実	H31年減	+2	+1	+2	+1	+2	+1	/		H32年減	+2	+1	+2	+1	+2	+1	+2	+1
	H26入学生			H27入学生			H28入学生			平均																																																									
	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般																																																										
倍率	0.90	0.81	1.08	1.04	0.95	0.93	0.98	0.96	1.11	0.97																																																									
情報処理科 減の年度	H30		H31		H32		H33																																																												
	教	実	教	実	教	実	教	実																																																											
H31年減	+2	+1	+2	+1	+2	+1	/																																																												
H32年減	+2	+1	+2	+1	+2	+1			+2	+1																																																									

#### 4 新高校の学科・学級編成（案）

- 現行：普通科5学級（200人）、  
食品調理科1学級（40人）、商業科1学級（40人）、情報処理科1学級（40人）

##### 平成30年度

- 普通科 5学級（200人）
  - 食品調理科 1学級（40人）
  - 商業科 1学級（40人）
- 
- 計 7学級（280人）



##### 平成31年度（平成32年度）

- 普通科 4学級（160人）
  - 食品調理科 1学級（40人）
  - 商業科 1学級（40人）
- 
- 計 6学級（240人）

#### < 学科構成の理由 >

新高校の学級数(募集定員)については、地区の生徒数の減少により、平成30年度に7学級規模、平成31年度又は平成32年度に6学級規模となることが見込まれている。

普通科は例年100名程度の国公立大学合格者を出し、8割の生徒が4年制大学に進学するなど、鹿島・藤津地区の大学進学ニーズに応える学科として中心的な役割を果たしているが、今後も現状の役割を維持するためには、生徒の進学ニーズに応じた学級編成や少人数指導等の進学指導体制が必要であり、そのためには一定の学科規模が必要となる。

しかし、一方で近年の志願倍率を見ると、過去5年間の一般選抜の志願倍率の平均が1.02倍であり、これからの地域の生徒数の減少を勘案すると、今後定員を十分に満たすことができなくなる可能性も懸念されるため、新高校においては平成31年度又は平成32年度に、現状の5学級から1学級少ない4学級規模とすることが望ましい。

商業科及び情報処理科は、地域的な特性に由来する家庭の事情等から、大学進学を目指さずに就職を目的として志望する生徒も一定数おり、そのような地域のニーズの受け皿となっている。両学科とも県内外を問わず多くの求人があり、地元企業にも多数就職するなど、地域産業の担い手を輩出している。また、進学面においても、約半数の生徒が大学・短大・専門学校等へ進学している状況である。

しかし、一方で近年の志願倍率を見ると、過去5年間の一般選抜志願倍率の平均が0.94倍であり、近年は定員割れをすることも多くなってきている。これからの地域の生徒数の減少を勘案すると、今後さらに定員を満たすことができなくなることが懸念されるため、新高校においては、平成30年度に現状の2学級から1学級少ない1学級規模とすることが望ましい。なお、学科については現在の商業科と情報処理科の2学科体制を再編して1学科2コース体制とすること等が考えられる。

食品調理科は調理師養成施設として厚労省の指定を受け、卒業と同時に調理師免許を取得できるという特色を持った学科であり、県内では牛津高校と鹿島実業高校の2学科のみの配置である。卒業生の多くは、藤津・鹿島地区の病院や施設の調理現場で調理員として従事しており、地元への貢献度も高いものがある。

直近2年間の志願倍率は1倍を割り込んでいるが、予備調査段階での志願倍率は依然として非常に高く、全県的に見ても食品調理科や、その他食品関係の学科に対する生徒のニーズは依然として高い状況であるため、新高校においては現状の1学級規模の維持が望ましい。

## 参考資料1

### 鹿島・藤津地区の高校別志願状況

#### 地区概況

地区	学校名	H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生			H28入学生		
		9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
鹿島 藤津 地区	鹿島	0.99	1.04	1.04	1.07	1.11	1.10	1.06	0.995	0.98	0.995	0.95	0.93	1.21	1.11	1.05
	大良	0.75	0.85	1.20	0.74	0.74	1.14	0.76	0.75	0.89	0.66	0.84	1.15	0.73	0.88	0.97
	塩田工業	0.71	0.81	1.00	0.74	0.74	0.99	1.00	1.03	1.16	1.00	1.02	1.04	0.86	0.97	1.07
	鹿島実業	1.38	1.33	0.94	1.35	1.30	0.92	1.29	1.22	1.11	1.13	1.03	0.81	1.13	1.09	0.96
	嬉野	1.20	1.13	1.25	1.01	1.08	1.23	0.97	0.86	0.90	0.76	0.78	0.90	0.83	0.88	0.97
旧西部学区計		1.08	1.08	1.09	1.07	1.08	1.13	1.07	1.06	1.05	1.02	1.01	1.05	1.05	1.03	1.03
新西部学区計		1.09	1.08	1.09	1.08	1.08	1.11	1.11	1.09	1.07	1.04	1.03	1.05	1.08	1.07	1.07

網掛けは1.00倍未満

一般倍率は、志願変更後の倍率である。

#### 鹿島高校及び鹿島実業高校志願状況（学科別）

学校名	学科名	H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生			H28入学生		
		9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
鹿島	普通科	0.99	1.04	1.04	1.07	1.11	1.10	1.06	1.00	0.98	1.00	0.95	0.93	1.21	1.11	1.05
鹿島実業	商業科	1.61	1.44	0.91	1.26	1.26	0.88	1.30	1.23	1.09	0.98	0.98	0.76	1.00	1.15	1.05
	情報処理科	0.90	1.13	1.00	1.53	1.38	1.00	1.28	1.20	1.14	1.43	1.13	0.93	1.38	0.98	0.76
	食品調理科	1.19	1.16	1.15	1.21	1.18	1.20	1.20	1.15	1.15	1.18	1.14	1.15	1.19	1.14	1.14
県平均		1.19	1.16	1.15	1.21	1.18	1.20	1.20	1.15	1.15	1.18	1.14	1.15	1.19	1.14	1.14

網掛けは1.00倍未満

一般倍率は、志願変更後の倍率である。

#### 学科別志願倍率平均（平成24年度入学生～平成28年度入学生）

高校	学科	一般選抜 平均倍率	予備調査を含めた 全平均倍率
鹿島	普通科	1.02	1.04
鹿島実業	商業科	0.94	1.13
	情報処理科		
	食品調理科	0.96	1.14

## 参考資料2

### その他 第4回設置準備委員会(学科構成)で出た意見・質問

#### 1 「入試の時に、別の学科を第2志望とすることはできないか。」

佐賀県立高等学校入学者選抜における出願方法について

##### 1 特色選抜A方式

出願は、1人につき1校1学科、1選抜方法に限る。また、特色選抜試験B方式との併願は認めない。

##### 2 特色選抜B方式

出願は、1人につき1校1学科に限る。また、特色選抜試験A方式との併願は認めない。

##### 3 一般選抜

2つ以上の学科を置く高等学校への志願者は、出願にあたって、これらの学科について、第3志望まで記入することができる。ただし、当該高等学校長が別に定める場合は、この限りではない。

「平成28年度佐賀県立高等学校入学者選抜実施要項」より抜粋

#### 2 「地区の子ども達が他地区に流出する数と他地区から流入する数はどうなっているのか。」

◆他学区(地区)から鹿島高校・鹿島実業高校への流入状況(特色・一般試験の合格進学者)  
(単位:人)

年度	東部学区 から	中部学区 から	北部学区 から	西部学区他地区から			鹿島・藤津から
				伊万里	武雄	白石	
H24	1	1	1	0	0	67	242
H25	2	3	0	0	3	59	243
H26	0	5	0	0	6	47	257
H27	0	2	0	0	9	46	230
平均(人)	1	3	0	0	5	55	243
(%)	0.2%	0.9%	0.1%	0.0%	1.5%	17.9%	79.4%

◆鹿島・藤津地区から他学区(他地区)への流出状況(特色・一般試験の合格進学者)  
(単位:人)

年度	東部学区 へ	中部学区 へ	北部学区 へ	西部学区他地区へ			鹿島・藤津から 県立高校へ合 格進学した総数
				伊万里	武雄	白石	
H24	4	28	0	0	10	93	615
H25	2	30	0	0	25	101	632
H26	4	25	0	0	16	99	595
H27	1	24	0	0	34	90	583
平均(人)	3	27	0	0	21	96	606
(%)	0.5%	4.4%	0.0%	0.0%	3.5%	15.8%	100.0%

##### 各地区対象校

伊万里	武雄	白石
伊万里農林	有田工業	佐賀農業
伊万里商業		杵島商業

3 「岡山県の校舎制高校（新見高校）は35人単位での生徒募集になっているようだが、教員配置はどうなっているのか。」

岡山県立新見高校の教員配置について

1 学級数・生徒数（H27.5.1現在）

学年	学科	募集定員	学級数	生徒数
1年	普通科	105	3	103
	生物生産科	30	1	26
	工業技術科	35	1	35
	総合ビジネス科	35	1	30
	計	205	6	194
2年	普通科	120	3	92
	生物生産科	30	1	30
	工業技術科	40	1	40
	総合ビジネス科	40	1	30
	計	230	6	192
3年	普通科	120	3	112
	生物生産科	30	1	27
	工業技術科	40	1	37
	総合ビジネス科	40	1	40
	計	230	6	216

平成27年度入試（現1年生）より普通科の募集定員は105人。工業技術科、総合ビジネス科の募集定員は35人となっている。

2 教員数（H27.5.1現在）

校長	副校長	指導教諭	教諭	養護教諭	実習教諭	実習教員	講師	非常勤講師
1	2	1	45	2	4	3	8	15

高校標準法に基づき算定した配置数

校長	教頭・副校長	教諭	養護教諭	実習助手
1	1	45	1	7

+加配 単位制 8人  
初任研 1人

【備考】

岡山県の校舎制では、教員は校地に張り付ける形で配置し、校地が2つに分かれていることを勘案して副校長と養護教諭を加配することとしている。（H27.11.20 岡山県教育委員会聴き取り）

## 教育課程、校時

## 1 教育課程について

教育課程表（事務局試案）

全日制・食品調理科

		入学年度		平成30年度入学			
教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年	合計	
国語	国語総合	4	5			5	
	現代文B	4		3	3	6	
地理 歴史	世界史A	2			2	2	
	地理A	2		2		2	
公民	現代社会	2	2			2	
数学	数学	3	3	3		6	
	数学A	2			3	3	
理科	科学と人間生活	2	2			2	
	生物基礎	2		2		2	
保健 体育	体育7～8	7～8	2	2	3	7	
	保健	2	1	1		2	
芸術	音楽	2		2		2,0	
	美術	2		2		2,0	
	書道	2		2		2,0	
外国語	コミュニケーション英語	3	4			4	
	コミュニケーション英語	4		4	2	6	
	英語表現	2			2	2	
家庭 情報	家庭基礎	2	2			2	
	社会と情報	2					
各学科に共通する教科小計			21	19	15	55	
家庭	生活産業基礎	2	2			2	
	課題研究	2～4			2	2	
	生活産業情報	2～4	2			2	
	食文化	1～2			1	1	
	調理	2～14	5	4	7	16	
	栄養	2～3	2	1		3	
	食品	2		2		2	
	食品衛生	2～4		2	3	5	
	公衆衛生	2～4			3	3	
	総合調理実習	3		3		3	
	学校設定科目		2	2	3	7	
校外学習活動	知識及び技能審査	1～20					
主として専門学科において開設される教科小計			13	14	19	46	
総合的な学習の時間				1		1	
履修単位数合計			34	34	34	102	
特別活動	ホ－ムル－ム活動		1	1	1		
	生徒会活動		別途計画				
	学校行事						
備考			「社会と情報」は「生活産業情報」で代替 「総合的な学習の時間」3単位のうち、「課題研究」 で2単位を代替 ...選択科目				

全日制・商業科

		入学年度	平成30年度入学			
教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年	合計
国語	国語総合	4	5			5
	現代文B	4		3	3	6
	国語表現				2	2
地理歴史	世界史A	2			2	2
	地理A	2		2		2
公民	現代社会	2	3			3
数学	数学	3	3	2		5
	数学A	2			3	3
理科	科学と人間生活	2	2			2
	生物基礎	2		2		2
保健体育	体育	7～8	2	2	3	7
	保健	2	1	1		2
芸術	音楽	2		2		2,0
	美術	2		2		2,0
	書道	2		2		2,0
外国語	コミュニケーション英語	3	3			3
	コミュニケーション英語	4		4	2	6
	英語表現	2			2	2
	英語表現	2			3	3
家庭	家庭基礎	2		2		2
情報	社会と情報	2				
各学科に共通する教科小計			19	20	15～20	
商業	ビジネス基礎	2～4	3			3
	課題研究	2～6			2	2
	総合実践	2～6			2	2
	マーケティング	2～4		2		2
	商品開発	2～4			3	3
	広告と販売促進	2～4			3	3
	ビジネス経済応用	2～4			2	2
	経済活動と法	2～4			2	2
	簿記	2～5	7			7
	財務会計	2～4		4		4
	財務会計	2～4			4	4
	原価計算	2～4		3	3	0-6
	情報処理	2～4	5			5
	ビジネス情報	2～4		4		4
	電子商取引	2～4			3	0,3
プログラミング	2～4		3	3	0-6	
ビジネス情報管理	2～5			3	3	
[学校設定]ビジネス計算	2～5					
校外学習活動	知識及び技能審査	1～20				
主として専門学科において開設される教科小計			15	13	14～19	
総合的な学習の時間				1		1
履修単位数合計			34	34	34	102
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	
	生徒会活動		別途計画			
	学校行事					
備考			「社会と情報」は「情報処理」で代替 「総合的な学習の時間」3単位のうち、「課題研究」で2単位を代替 7単位と 7単位はまとめて選択			
平成30年度から、情報処理科が廃止され、商業科1学級となるため、商業科内に情報系科目を選択科目として設定する。なお、一部推薦入試対策として、普通科との選択も可能としている。						



全日制・普通科

教科	科目	標準 単位	1 年	2 年		3 年		履修単位の計	
				文系	理系	文系	理系	文系	理系
国語	国語総合	4	5					5	5
	現代文B	4		3	2	3	2	6	4
	古典	4		4	3	3	3	7	6
地理歴史	世界史A	2						0, 2	0, 2
	世界史B	4						0, 4, 7	0, 6
	日本史A	2			(2)	(2)			
	日本史B	4		(3)	(2)	(4)	(4)	0, 4, 7	0, 6
	地理A	2						0, 2	0, 2
地理B	4					[4]	0, 4, 7	0, 6	
公民	現代社会	2	2					2	2
	倫理	2						0, 2	
	政治・経済	2						0, 2	
数学	数学	3	3					3	3
	数学	4	1	4	3			5	4
	数学	5			2		3		5
	数学A	2	2					2	2
	数学B	2		2	2			2, 4	2
	総合数学1	2~6				4		4	
総合数学2	2~6					4		4	
理科	物理基礎	2	2					2	2
	物理	4				(2)			0, 7
	化学基礎	2			(3)	2	(4)		2
	化学	4				2		5	7
	生物基礎	2	2	1				3	2
	生物	4							0, 7
	地学基礎	2		2				2, 4	
総合生物	2~4					2		2	
保健体育	体育	7~8	3	3	3	2	2	8	8
	保健	2	1	1	1			2	2
芸術	音楽	2				(2)		0, 2	0, 2
	音楽	2						0, 1	
	美術	2	(2)					0, 2	0, 2
	美術	2		(1)				0, 1	
書道	書道	2						0, 2	0, 2
	書道	2						0, 1	
外国語	コミュニケーション英語	3	4					4	4
	コミュニケーション英語	4		5	4			5	4
	コミュニケーション英語	4				5	4	5	4
	英語表現	2	2					2	2
英語表現	4		2	2	2	2	4	4	
家庭	家庭基礎	2	2					2	2
情報	社会と情報	2	2					2	2
校外学習活動	知識及び技能審査	2~8							
共通教科計			33	33	33	29, 31, 33	33	95, 97, 99	99
主として開設される各教科において	音楽	音楽理論	2~6					0, 2	
		音楽表現	2					0, 2	
	美術	素描	2~6					0, 2	
		美術表現	2					0, 2	
	書道	書道概論	2					0, 2	
		書道表現	2					0, 2	
家庭	子どもの発達と保育	2					0, 2		
専門教科計						0, 2, 4		0, 2, 4	
総合的な学習の時間			1	1	1		1	3	3
履修単位の合計			34	34	34	34	34	102	102
特別活動	ホームルーム活動(週あたりの時間数)		1	1	1	1	1		
	生徒会活動		別途計画						
	学校行事								
備考	<p>1 ( )は、それぞれ1科目を選択し履修する。</p> <p>2 第1学年の数学は、数学I(3単位)と数学A(2単位)を週6時間を使って交互に合計5単位分履修する。数学I・数学A終了後、週6時間を使って数学IIを1単位分履修する。</p> <p>3 第1学年の芸術は、音楽I・美術I・書道Iから1科目を選択し履修する。第2学年の文系コースは、引き続き音楽II・美術II・書道IIを選択する。</p> <p>4 第2学年文系コースの数学は、数学II(4単位)と数学B(2単位)を週6時間を使って、交互に履修する。理系コースの数学は、数学II(3単位)、数学B(2単位)を週7時間を使って履修する。数学II・数学B終了後、週7時間を使って数学IIIを2単位分履修する。</p> <p>5 第2学年理系コースの理科は、化学基礎を週4時間を使って2単位分履修する。化学基礎終了後、化学を週4時間を使って2単位分履修する。</p> <p>6 第2学年で世界史Bを選択した者は地理Aを選択する。日本史Bか地理Bかのいずれかを選択した者は世界史Aを選択する。地歴Bの科目は3年次まで継続履修する。</p> <p>7 第3学年の文系コースは2年次からの継続履修の地歴B(4単位)を履修する。また、[ ]については、倫理と政治・経済の各2単位計4単位を履修するか、または、2年次に履修していない地歴Bの3科目(各4単位)から1科目を選択し履修する。</p> <p>8 第3学年文系コースは、数学B・音楽理論・素描・書道概論・子どもの発達と保育から1科目、地学基礎・音楽表現・美術表現・書道表現から1科目をそれぞれ選択し履修する。</p> <p>9 第3学年理系コースの数学は、数学IIIを週7時間を使って3単位分履修し、数学III終了後、週7時間を使って総合数学2を4単位分履修する。</p> <p>10 第3学年の理系コースは2年次からの継続履修の物理または生物(4単位)を履修する。</p> <p>11 知識及び技能審査(校外学習活動)は、実用英語技能検定の準2級～準1級取得者を対象に2～4単位を、日本漢字能力検定の準2級～準1級取得者を対象に2～4単位を認定する。</p>								

## 2 新高校の校時について

### (1) 現行の校時

【鹿島高校】職員朝礼 8 : 05 ~

	50分授業	45分授業
読書	8 : 15 ~ 8 : 25	8 : 15 ~ 8 : 25
朝礼 SHR	8 : 25 ~ 8 : 30	8 : 25 ~ 8 : 30
1校時	8 : 40 ~ 9 : 30	8 : 40 ~ 9 : 25
2校時	9 : 40 ~ 10 : 30	9 : 35 ~ 10 : 20
3校時	10 : 40 ~ 11 : 30	10 : 30 ~ 11 : 15
4校時	11 : 40 ~ 12 : 30	11 : 25 ~ 12 : 10
昼休み	12 : 30 ~ 13 : 15	12 : 10 ~ 12 : 55
5校時	13 : 15 ~ 14 : 05	12 : 55 ~ 13 : 40
掃除	14 : 05 ~ 14 : 20	13 : 40 ~ 13 : 55
6校時	14 : 25 ~ 15 : 15	14 : 00 ~ 14 : 45
7校時	15 : 25 ~ 16 : 15	14 : 55 ~ 15 : 40
終礼	16 : 15 ~ 16 : 20	15 : 40 ~ 15 : 50

【鹿島実業高校】職員朝礼 8 : 25 ~

	50分授業	45分授業
読書	8 : 35 ~ 8 : 45	8 : 35 ~ 8 : 45
SHR	8 : 45 ~ 8 : 55	8 : 45 ~ 8 : 55
1校時	9 : 00 ~ 9 : 50	9 : 00 ~ 9 : 45
2校時	10 : 00 ~ 10 : 50	9 : 55 ~ 10 : 40
3校時	11 : 00 ~ 11 : 50	10 : 50 ~ 11 : 35
4校時	12 : 00 ~ 12 : 50	11 : 45 ~ 12 : 30
昼休み	12 : 50 ~ 13 : 35	12 : 30 ~ 13 : 15
5校時	13 : 35 ~ 14 : 25	13 : 15 ~ 14 : 00
6校時	14 : 35 ~ 15 : 25	14 : 10 ~ 14 : 55
掃除	15 : 25 ~ 15 : 40	14 : 55 ~ 15 : 10
SHR	15 : 40 ~ 15 : 45	15 : 10 ~ 15 : 15

### (2) 校時設定の考え方

両校舎で校時をそろえる場合 普通科校時をベースに調整する。

- ・ 専門学科の単位数を週 35 時間とする場合は、商業科については学び直しや進学対応等の講座の開設、食品調理科については、現在課外で行っている補充授業を正式な時間割に位置付ける等の対応を検討する。
- ・ 生徒の学年別配置等を行った場合は、学校運営上校時を揃えた方が望ましい。

両校舎で校時をそろえない場合

- ・ 生徒の配置は、学科別配置（普通科 - 専門学科）が望ましい。
- ・ 部活動の開始時間が両校舎で異なるため、専門学科の生徒のみの場合（15:45 以降）の活動場所と、合同練習（16:20 以降）の練習場所を別に設定しなければならない。

## 校務分掌、各種委員会

### 1 校務分掌

#### (1) 各分掌の業務内容区分（例）

##### 総務・庶務

年間日程調整、式典（入学式・卒業式・始業式など）の企画、保護者団体（PTA や育友会など）・同窓会との連絡・調整、学校広報紙の作成、防消火避難訓練の計画・実施など

##### 教務

教育課程(カリキュラム)の検討、時間割の作成、生徒の学籍・成績評価に関する事務処理、教科書に関する事務処理、定期考査の運営など

##### 生徒指導・生活指導

校則などの検討、生徒の校内生活・校外生活上の指導指針の作成、補導、交通安全指導、拾得遺失物の管理など

##### 特別活動指導

生徒会（やこれら主体の学校行事の運営）部活動の統括など。（生徒指導・生活指導と兼ねる場合が多い）

##### 進路指導

進学・就職活動の支援、進学・就職情報の収集と広報、進路に関する統計、模擬試験・模擬面接の計画・実施など

##### 保健

保健室の管理、健康・身体に関する統計、身体測定・各種検診の計画・実施、学校医との連絡・調整など

##### 図書

図書館・図書室の管理・運営、読書指導、視聴覚器材の管理など

##### 人権教育・同和教育

人権教育・同和教育の計画・実施、研修の計画・実施など

##### 情報システム

情報機器・校内 LAN の管理、学校ホームページの作成など

##### 研修

教職員の研修の計画・実施など。教育実習も含む

総務・庶務	教務に統合
特別活動指導	生徒指導に統合
人権教育・同和教育	研修広報に統合
情報システム	教務に統合（広報業務は、研修広報）

(2) 鹿島高校・鹿島実業高校の校務分掌及び業務比較

教務・総務・研修・広報・情報・生徒指導 関係

分掌	鹿島高校			鹿島実業高校		
	校務分掌	業務区分	業務内容	校務分掌	業務区分	業務内容
教務 総務	教務	庶務	諸調査	教務	庶務	調査・統計
	教務	庶務	学校要覧	教務	庶務	学校要覧等
	教務	庶務	奨学金	教務	庶務	奨学金
	教務	庶務	出席各種統計・生徒異動	教務	情報管理	SEI-Net、成績処理・出欠統計
	教務	庶務	成績処理・管理			
	教務	庶務	教育実習	教務	研修	教育実習
	教務	特別活動	HR活動	教務	庶務	特別活動(LHR計画)
	教務	行事・諸企画		教務	庶務	行事・日課
	教務	特別活動	国際理解・留学等	教務	国際交流	上海国際交流企画、留学生
	教務	カリキュラム	教育課程・シラバス	教務	専門教育	教育課程
	教務	カリキュラム	時間割	教務	庶務	時間割・チャイム
	教務	カリキュラム	チャイム			
	教務	カリキュラム	考査時間割・監督割			
	教務	カリキュラム	教科書・副教材	教務	庶務	教科書・副教材
	教務	カリキュラム	考査問題保管	教務	庶務	考査問題管理
	教務	特別活動	表彰・浄書	生徒指導	生徒会指導	表彰・伝達式
	教務	庶務	諸帳簿・教具	教務	専門教育	専門教育委員会事務
	教務	庶務	職員会議・運営委員会	教務	専門教育	商業科選科、選択科目等調整
	教務	庶務	合格者のしおり等	教務	専門教育	鹿実フェア
	教務	庶務	学事概要	教務	情報管理	ネットワーク管理
教務	特別活動	行事・集会	教務	情報管理	ICT教育推進、学習用PC、情報機器管理	
教務	特別活動	防災対策				
教務	カリキュラム	授業時間数記録				
研修 広報	企画研修	研修	修学旅行	教務	研修	宿泊研修・修学旅行等
	企画研修	キャリア形成支援事業	課題探究的学習推進事業(総学)	進路指導	キャリア教育	総合的な学習の時間
	企画研修	広報	鹿城だより	教務	広報	鹿実だより
	企画研修	広報	学校案内パンフレット	教務	広報	学校案内パンフレット
	企画研修	広報	ホームページ管理	教務	情報管理	学校HP、スクールNEWS
	企画研修	広報	パネル作成	教務	庶務	各種掲示物
	企画研修	人権・同和教育		教務	研修	人権・同和教育
	企画研修	研修	職員研修	教務	専門教育	授業改善・学力向上
	企画研修	総括・企画				
	企画研修	キャリア形成支援事業	進路啓発的事業			
企画研修	広報	学校紹介映像作成				
生徒 指導	生徒指導	生活指導	企画・渉外・報告文書	生徒指導	庶務	調査報告
	生徒指導	生活指導	諸届・許可・遺失物管理	生徒指導	庶務	諸届許可
	生徒指導	生活指導	服装・頭髪指導	生徒指導	庶務	遺失物、拾得物
	生徒指導	生活指導	校内・校外指導	生徒指導	人間教育	服装頭髪指導
	生徒指導	生活指導	校内・校外指導	生徒指導	人間教育	マナー指導
	生徒指導	生徒会指導	挨拶運動	生徒指導	人間教育	交通安全指導
	生徒指導	生活指導	防犯ブザー	生徒指導	人間教育	防犯・防災教育
	生徒指導	生徒会指導	ボランティア・対外行事	生徒指導	生徒会指導	ボランティア活動
	生徒指導	生徒会指導	部活動指導	生徒指導	生徒会指導	部活動
	生徒指導	生徒会指導	赤門祭	生徒指導	生徒会指導	体育大会
	生徒指導	生徒会指導	会計・庶務	生徒指導	生徒会指導	会計
	生徒指導	生活指導	集会・制服	生徒指導	人間教育	人間教育委員会事務
	生徒指導	生活指導	自転車点検・管理	生徒指導	生徒会指導	企画・運営
	生徒指導	生活指導	個人・クラス写真・生徒手帳	生徒指導	杵藤地区事務局	
	生徒指導	生徒会指導	企画・式・集会			
	生徒指導	生徒会指導	募金活動			
	生徒指導	生徒会指導	クラスマッチ			
	生徒指導	生徒会指導	「むつごろ」出版			

は両校に共通した業務が無いもの

進路指導・保健・図書

分掌	鹿島高校			鹿島実業高校		
	校務分掌	業務区分	業務内容	校務分掌	業務区分	業務内容
進路指導	進路指導	諸調査・統計		進路指導	進学指導	進学情報収集
	進路指導	進学関係	特課	進路指導	進学指導	特課関連事務
	進路指導	進学関係	模試・資料作成	進路指導	模擬試験・学カテスト	成績処理・分析
	進路指導	進学関係	小論文	進路指導	進学指導	小論文指導計画
	進路指導	進学関係	面接指導	進路指導	就職指導	面接・作文指導計画
	進路指導	進学関係	卒業生	進路指導	既卒者調査書発行	
	進路指導	既卒者就職相談		進路指導	既卒者就職相談	
	進路指導	就職指導		進路指導	就職指導	就職相談
	進路指導	庶務・会計		進路指導	庶務・会計	
	進路指導	統括・企画		進路指導	キャリア教育	キャリア教育委員会事務
	進路指導	広報		進路指導	キャリア教育	キャリア教育支援事業
	進路指導	パソコン		進路指導	就職指導	会社訪問・企業開拓
				進路指導	就職指導	公務員・看護・SPI対策
			進路指導	進学指導	進学相談	
			進路指導	ガイダンス取りまとめ		
保健	保健厚生	保健厚生	環境衛生・学校美化	保健指導	保健安全管理	環境衛生管理、環境美化
	保健厚生	保健厚生	安全点検	保健指導	保健安全管理	安全管理
	保健厚生	保健厚生	調査統計	保健指導	保健安全管理	諸調査、統計
	保健厚生	保健厚生	救急処置・保健指導	保健指導	保健安全管理	健康管理
	保健厚生	保健厚生	食育推進	保健指導	人間教育	健康教育、安全教育
	保健厚生	保健厚生	企画	保健指導	教育相談	企画・運営
	保健厚生	教育相談	スクールカウンセラー	保健指導	教育相談	スクールカウンセラー関連事務
	保健厚生	教育相談	特別支援教育	保健指導	教育相談	特別支援教育
	保健厚生	保健厚生	厚生(売店)	教務	PTA	購買部
	保健厚生	教育相談	校内関係全般			
図書	図書館教育		企画	教務	図書・視聴覚	企画・運営
	図書館教育		朝読書			
	図書館教育		読書感想文	教務	図書・視聴覚	読書指導
	図書館教育		読書感想画			
	図書館教育		クラス読書会			
	図書館教育		広報活動・新着図書案内			
	図書館教育		ムセイオン発行			
	図書館教育		芸術鑑賞会			
	図書館教育		図書委員会			
	図書館教育		資料管理・保管			
			庶務・会計			
渉外	同窓会			同窓会		
	PTA			教務	PTA	企画・運営
				教務	PTA	鹿藤地区事務局

は両校に共通した業務が無いもの

分掌別職員数(延べ人数)

鹿島高校		鹿島実業高校	
教務	10人	教務(図書含む)	12人
企画研修	5人		
生徒指導(生徒会含む)	11人	生徒指導(生徒会含む)	9人
進路指導	8人	進路指導	9人
保健厚生(教育相談含む)	9人	保健指導(教育相談含む)	5人
図書館教育	5人		

(3) 鹿島地区新高校 校務分掌設定の考え方

現在の鹿島高校の校務分掌をベースとして検討する。

分掌主任と分掌副主任は、校舎別に分散配置として検討する。

進路指導部は分室を設け、進学指導室と就職指導室に分ける。

## 2 各種委員会

### (1) 鹿島高校・鹿島実業高校の委員会比較

鹿島高校			鹿島実業高校		
委員会	委員人数	別業務	委員会	委員人数	別業務
運営委員会	13	学校評価委員会	運営委員会	15	
			学校評議員会	6	
教務委員会	14	カリキュラム・教科用図書検討・副教材	各種選定委員会	5	
			選科委員会	11	
キャリア形成支援事業推進委員会	10		キャリア教育委員会	14	
人権・同和教育推進委員会	9		人権・同和教育委員会	8	
生徒指導委員会	7		生徒指導委員会	15	
進路指導委員会	15	学力向上対策	進路指導委員会	17	
学校保健安全委員会	14	食育推進委員会	学校保健安全委員会	15	
衛生委員会	8		衛生委員会	8	
教育相談委員会	12		教育相談・特別支援教育委員会	9	
特別支援教育委員会	9				
転入学委員会	8		専門教育委員会	17	
企画・研修委員会	15		人間教育委員会	11	
特別活動委員会	13		鹿実フェア実行委員会	14	
図書委員会	12		いじめ・体罰等対策委員会	10	
学校教育情報化推進委員会	11	ICT利活用教育推進委員会			
百二十周年記念行事企画検討委員会	8				

は両校に共通した委員会が無いもの

## 平成 27 年度検討結果まとめ及び平成 28 年度以降の検討課題

### 平成 27 年度の検討状況

#### 1 目的

佐賀県教育委員会は、平成 26 年 12 月に「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第 1 次）」を策定し、鹿島高校及び鹿島実業高校の再編を決定した。

計画では、平成 30 年度に現在の鹿島高校の 1 学年 200 人（5 学級規模）及び鹿島実業高校の 1 学年 120 人（3 学級規模）を再編して、合わせて 280 人（7 学級規模）とし、学科については現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討することとした。また、地域の生徒数の減を勘案し、平成 31 年度又は 32 年度にさらに募集定員を 40 人（1 学級規模）減じることとした。

これを踏まえ、鹿島地区新高校の具体的な在り方等を検討するために、平成 27 年 4 月に鹿島高校、鹿島実業高校、両高校の高校同窓会・PTA、地元中学校、鹿島市、嬉野市、白石町、太良町の市町関係者や教育長及び佐賀県教育委員会の関係者からなる「鹿島地区新高校設置準備委員会」を立ち上げ、魅力ある新高校づくりを目指した検討を行ってきた。

#### 2 「鹿島地区新高校設置準備委員会」での検討経過

現在までに、「鹿島地区新高校設置準備委員会」を 4 回開催し、鹿島地区の高校再編に向けて、めざす学校像、学科構成、校舎制、教育課程、校時等についての検討を行ってきた。

また、この委員会は公開とし、その都度、県のホームページ等を通じて、開催案内や協議事項概要等の報告を行い、県民への情報提供に努めた。

これまでの設置準備委員会開催日及び主な検討事項は、次のとおりである。

回	日付	主な検討項目
第 1 回	平成 27 年 6 月 1 日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員委嘱</li> <li>新実施計画の概要</li> <li>新高校設置準備委員会検討スケジュール</li> <li>めざす学校像（意見聴取）</li> </ul>
第 2 回	平成 27 年 7 月 27 日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>めざす学校像（事務局案検討）</li> <li>学科の構成（説明）</li> <li>その他</li> </ul>
第 3 回	平成 27 年 10 月 29 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>めざす学校像（事務局案再検討）</li> <li>学科の構成（協議）</li> <li>校舎制（説明）</li> <li>その他</li> </ul>
第 4 回	平成 27 年 12 月 25 日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科の構成（協議）</li> <li>校舎制（説明）</li> <li>教育課程、校時（説明）</li> <li>その他</li> </ul>

## 検討結果

### 1 めざす学校像

#### (1) 鹿島地区新高校「めざす学校像」

心身ともに逞しく生きる力を持ち

豊かな人間性と知性とを兼ね備えた

広く社会に貢献する人材を育てる学校

#### (2) その他

第2回設置準備委員会で出された、盛り込みたいフレーズやキーワード等は、教育目標や指導方針を策定する際の参考とする。

校訓、キャッチフレーズ等は別途検討する。(校内検討委員会)

### 2 校舎制(鹿島地区の新高校の場所については「当面、校舎制」としている)

#### (1) 再編後の校舎(校地)の呼称

鹿島高校校舎 (仮称)「赤門学舎」

鹿島実業高校校舎 (仮称)「大手門学舎」

#### (2) 生徒の配置・移動(授業・部活動・行事等)

生徒の教室配置について

< 次回の設置準備委員会で検討 >

生徒の移動について

##### ア 基本方針

- ・ 両校舎の距離が極めて近いこと、バス等の移動手段については考慮しない。
- ・ 授業については生徒の校舎間移動は原則行わず、授業担当教員が移動する。

##### イ 学校行事等における移動

- ・ 合同行事等の際は、生徒の移動時間を考慮したスケジュールを設定する。
- ・ 屋内の合同行事は体育館で行うものが最も多いと想定される。

##### ウ その他考慮すべきこと

- ・ 行事等で移動する生徒用の下足箱の増設(体育館)
- ・ 雨天時の移動(行事)(傘の準備をしてこなかった生徒用に、移動用の貸出傘を準備する)

#### (3) 職員の配置・移動(授業・部活動・行事等)

職員の配置について

##### ア 基本方針

- ・ 授業の担当クラスや時間割、学年を考慮して職員配置を行う。

##### イ 校長の配置について

- ・ どちらかに校舎を決めて常駐(校長不在の校舎には副校長を配置)

##### ウ 校務分掌

< 試案を基に今後各校で検討 >

職員の移動について

##### ア 基本方針

- ・ 両校舎の距離が極めて近いこと、原則自家用車・公用車での移動は行わない。
- ・ 授業については生徒の校舎間移動は原則行わず、授業担当教員が移動する。



イ 授業における移動

- ・ 極力校舎間移動をしないような時間割を設定する。
- ・ 移動が必要な授業は、特定の曜日や時間帯（午前・午後）に固める。

各種会議及び委員会等の開催形態（職員会議、学年会、教科会、各種委員会等）  
<今後各校で検討>

両校舎間の連絡手段の整備

- ・ 両校舎間での内線（インターホン）の整備
- ・ 両校舎をカバーする放送設備の整備（鹿島校舎から鹿実校舎に放送を入れる等）
- ・ テレビ会議・中継システム（天候の状況により全校集会を各教室の電子黒板を利用して行う等）
- ・ 文書の受付、回議、回覧体制の構築

(4) 部活動

- ・ 再編後の部活動の設置について検討する（統合・新設等）
- ・ 部活動ごとに活動場所を設定する。
- ・ 生徒の部活動の移動は各自で行う。

(5) 合同行事（予定）

入学式（体育館）	卒業式（体育館）	始業式・終業式（体育館）
芸術鑑賞会（体育館・市民会館等）		体育祭（グラウンド）
文化祭（体育館・各校舎・各教室）		高校総体壮行会（体育館）
全校集会（体育館）	修学旅行	開校記念行事（体育館）
学年集会（体育館・武道場・講堂）		新入生合宿
牡丹餅会（体育館）		

## 平成 28 年度以降の検討課題及び検討スケジュール

### 1 平成 28 年度設置準備委員会スケジュール（案）

回	予定時期	主な検討項目（予定）
第 6 回	平成 28 年 4 ~ 5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程・校時</li> <li>・ 施設設備の整備</li> <li>・ 校名・校章・校歌・制服等検討方針</li> </ul>
第 7 回	平成 28 年 6 ~ 7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校務分掌・各種委員会等</li> <li>・ 進路指導・生徒指導（含生徒会活動・部活動）</li> <li>・ 作業部会の検討状況報告</li> </ul>
第 8 回	平成 28 年 8 ~ 9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選抜方法</li> <li>・ 学校行事</li> <li>・ 作業部会の検討状況報告</li> </ul>
第 9 回	平成 28 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鹿島地区新高校再編整備実施計画（原案）の検討</li> </ul>

### 2 全般的スケジュール

年度	予定時期	主な検討項目
平成 28 年度	H28 年 10 月	鹿島地区新高校再編整備実施計画（原案）...第 9 回設置準備委員会で検討
	H28 年 12 月	鹿島地区新高校再編整備実施計画（案）
	H29 年 2 月	2 月議会（「校名」に関する条例改正案）
	H29 年 3 月	鹿島地区新高校再編整備実施計画策定
平成 29 年度	H29 年 4 月 ~	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報活動、施設・設備の整備</li> <li>・ 「佐賀県立学校の課程等に関する規則」「佐賀県立高等学校の通学区域に関する規則」の一部改正（再編室）</li> </ul>
	H29 年 7 月	教育課程申請（学校教育課報告）
平成 30 年度	H30 年 4 月	鹿島地区新高校 開校

### 3 検討課題及びスケジュール

	検討課題・項目	検討時期	主体となる検討会議
1	教育課程・コース設定素案	~ H28 年 4 月	校内検討委員会
2	（校訓・キャッチフレーズ等）	~ H28 年 10 月	校内検討委員会
3	（校名・校章・校歌・制服）	~ H28 年 10 月	（検討方針を第 6 回で検討）
4	広報計画	~ H29 年 3 月	作業部会

それぞれの検討結果及び進捗状況については、平成 28 年度の設置準備委員会において逐次報告することとする。

教育課程については、配置教員数の算定資料となるため、H28 年度初頭頃までに素案を作成し、その後継続検討とする。

## 鹿島地区新高校 校舎制における各校舎への生徒配置について

## 1 各校舎の教室・特別教室等

教室種別	鹿島高校校舎(〈仮〉赤門学舎)				鹿島実業高校校舎(〈仮〉大手門学舎)			
	室名	室数	面積	階	室名	室数	面積	階
普通教室	普通教室	5	65	1	普通教室	5	65	1
	普通教室	5	65	2	普通教室	5	65	2
	普通教室	5	65	3	普通教室	5	65	3
					普通教室	1	86	1
					普通教室	1	86	2
					普通教室	1	86	3
芸術	音楽室	1	102	3	音楽室	1	131	5
	美術室	1	123	3	美術室	1	117	4
	書道室	1	102	3	書写室	1	94	4
地歴公民	地歴・公民教室	1	102	3				
家庭科	家庭経営保育実習室	1	62	2	一般調理実習室	1	139	1
	被服実習室	1	151	2	専門調理実習室	1	154	1
	調理実習室	1	183	2	総合調理実習室	1	80	1
					食物準備室	1	35	1
					家庭経営保育実習室	1	84	1
					第一被服室	1	173	4
					第二被服室	1	157	4
理科	物理室	1	108	3	第一理科室	1	130	2
	生物室	1	108	4	第二理科室	1	121	2
	化学室	1	108	4				
商業科					商事実習室	1	92	3
					プログラミング実習室	1	94	3
					ワープロ実習室	1	144	3
					電算機室	1	47	3
					CAI室	1	110	4
					簿記実習室	1	94	5
					商業実践室	1	299	4
その他	視聴覚室	1	160	4	視聴覚室	1	117	5
	多目的室	1	62	2	中講義室	1	80	2
	学習室	1	82	3	福祉介護実習室	1	104	3
	準備室→多目的室	1	62	3				
	CAI教室→多目的室	1	108	3				

鹿島高校の普通教室は、現在行われている改築工事後の数

## 2 生徒配置案

(1)【案】: 学科別配置

現状の鹿島高校、鹿島実業高校の生徒配置を踏襲

配置例

校舎	学科	学年	学級数	生徒数	普通教室数
大手門	商業科	全学年	3学級	120人	18室
	家庭科	全学年	3学級	120人	
赤門	普通科	全学年	12学級	480人	15室

年次進行（H30 情報処理科減 H31 普通科減の場合）

年度	校地	学年（学科）	必要教室数
平成 30	大手門	1年（商業、家庭）2年（商業、情報、食品）3年（商業、情報、食品）	8（2,3,3）
	赤門	1年（普通）2年（普通）3年（普通）	15（5,5,5）
平成 31	大手門	1年（商業、食品）2年（商業、食品）3年（商業、情報、食品）	7（2,2,3）
	赤門	1年（普通）2年（普通）3年（普通）	14（4,5,5）
平成 32	大手門	1年（商業、家庭）2年（商業、食品）3年（商業、食品）	6（2,2,2）
	赤門	1年（普通）2年（普通）3年（普通）	13（4,4,5）

利点

- ・ それぞれの学科の現状の指導体制を大きく変える必要がない
- ・ 同じ学科の他学年の生徒と一緒にいることで学ぶことも多い
- ・ 職員の移動が最小限で済む
- ・ 時間割を組みやすい
- ・ 施設・設備の追加整備が不要（現状の施設・設備の利用が可能）
- ・ それぞれの校舎で異なる教育課程や校時でも運用可能

課題

- ・ 新高校としての一体感が醸成しにくい
- ・ 大手門学舎に配置される生徒数が少なくなり（H32 年度で6学級）活気が無くなる

（2）【案】：学年別配置

1年次は全て大手門学舎に配置。2年次以降普通科、商業科は赤門学舎に配置

配置例

校舎	学科	学年	学級数	生徒数	普通教室数
大手門	普通科	1 学年	4 学級	160 人	18 室
	商業科	1 学年	1 学級	40 人	
	家庭科	全学年	3 学級	120 人	
赤門	普通科	2,3 学年	8 学級	320 人	15 室
	商業科	2,3 学年	2 学級	80 人	

年次進行（H30 情報処理科減 H31 普通科減の場合）

年度	校地	学年（学科）	必要教室数
平成 30	大手門	1年（全）2年（商業、情報、食品）3年（商業、情報、食品）	13（7,3,3）
	赤門	2年（普通）3年（普通）	10（5,5）
平成 31	大手門	1年（全）2年（食品）3年（商業、情報、食品）	10（6,1,3）
	赤門	2年（普通、商業）3年（普通）	11（6,5）
平成 32	大手門	1年（全）2年（食品）3年（食品）	8（6,1,1）
	赤門	2年（普通、商業）3年（普通、商業）	11（5,6）

利点

- ・ 1年次に同じ校舎で過ごすことで、学校としての一体感が醸成される
- ・ 大手門学舎にもそれなりの数の生徒が配置されるため、スケールメリットを得やすい

### 課題

- ・ 赤門学舎の方に商業実践室（300 m<sup>2</sup>程度）等の大規模な施設・設備の追加整備が必要となる
- ・ 普通科、商業科の教員で、校舎間移動が必要になる教員が多くなる
- ・ それぞれの校舎に複数の学科の生徒が混在するため、学校運営上、教育課程（総単位数）や校時を全ての学科で揃える方が望ましい
- ・ 時間割を組みにくい

### (3)【案】：学年別配置

1年次は全て大手門学舎に配置、2年次以降普通科のみ赤門学舎に配置

### 配置例

校舎	学科	学年	学級数	生徒数	普通教室数
大手門	普通科	1 学年	4 学級	160 人	18 室
	商業科	全学年	3 学級	120 人	
	家庭科	全学年	3 学級	120 人	
赤門	普通科	2,3 学年	8 学級	320 人	15 室

### 年次進行（H30 情報処理科減 H31 普通科減の場合）

年度	校地	学年（学科）	必要教室数
平成 30	大手門	1 年（全） 2 年（商業、情報、食品） 3 年（商業、情報、食品）	13（7,3,3）
	赤門	2 年（普通） 3 年（普通）	10（5,5）
平成 31	大手門	1 年（全） 2 年（商業、食品） 3 年（商業、情報、食品）	11（6,2,3）
	赤門	2 年（普通） 3 年（普通）	10（5,5）
平成 32	大手門	1 年（全） 2 年（商業、食品） 3 年（商業、食品）	10（6,2,2）
	赤門	2 年（普通） 3 年（普通）	9（4,5）

### 利点

- ・ 1年次に同じ校舎で過ごすことで、学校としての一体感が醸成される
- ・ 学科別配置と比較して、大手門学舎はより多くの生徒が配置されるため、スケールメリットを得やすい
- ・ 施設・設備の追加整備が不要（現状の施設・設備の利用が可能）
- ・ 授業は普通科の教員の移動のみで運用可能

### 課題

- ・ 大手門学舎の家庭科に関する特別教室の稼働キャパシティがオーバーする可能性がある
- ・ 大手門学舎に複数の学科の生徒が混在するため、学校運営上、教育課程（総単位数）や校時を全ての学科で揃える方が望ましい
- ・ 普通科のみの配置で、配置される生徒数が減少する赤門学舎の生徒にとっては、学校の一体感を醸成するという点でのメリットは見えない

### 3 利点と課題 まとめ

案 では施設設備の整備面でコストがかからず、授業の運用に関しても時間割や教員の移動等の負担は最も少なくなると想定される。ただし、実質的に現状の2校体制と変わらないため、ひとつの高校としての一体感や、新しい高校に生まれ変わったというようなアピール効果は弱く、周囲から現状の2つの高校が単に生徒減により縮小しただけと捉えられる可能性がある。

案 については、他学科と同じ校舎で学ぶ期間が多くなることで、他の2案と比較して、一つの高校としての一体感は醸成されやすい。ただし、現状で赤門学舎（鹿島）側には商業科の実習に使用できる教室はないため、商業実践室等への大規模な施設・設備の改修が必要となる。また、移行期には大手門学舎（鹿実）側にも商業科の生徒が残るため、両校舎に商業科の実習に使用する教室を置く必要が出てくる。なお、商業科の実習に使用する教室に改修する赤門学舎の教室については、1年生が大手門学舎側に移動することにより、芸術関係の教室（音楽室、美術室、書道室）または家庭科室（被服実習室、調理実習室）などを改修することが考えられるが、将来の統合を見据えた上での改修も必要となるかもしれない。

案 は、施設設備の改修の必要がなく、また1年生は全て同じ校舎に入るため、学校の一体感も醸成できるなど、案 と案 の折衷的な案であり、案 と案 のデメリットを回避することができるように見えるが、赤門学舎側から1年生が大手門学舎に抜けただけの形であり、普通科の生徒のみの配置となる赤門学舎側の生徒にとっては、学校の一体感を醸成するという点でのメリットは見えない。

校舎制による生徒配置については、以上を踏まえて作業部会で再度検討し、第6回設置準備委員会で事務局案を提示したい

## 複数校合同チームによる大会参加について

### 【全国高等学校総合体育大会】

「複数校合同チームによる大会への参加についての考え方」(全国高等学校体育連盟事務局)

- 1 部員不足に伴う複数校合同チームの大会参加について
  - (1) 全国高等学校総合体育大会は学校対抗制を原則としている。したがって、各学校を単位として大会に参加することが要件となるため、部員不足に伴う合同チームの参加は認めない。
  - (2) 各都道府県高体連及び専門部においては、各都道府県の大会等の参加に関する基準等を検討し、実施可能な専門部から合同チームが成果を発揮できる場を設けるよう努力する。その際、合同チームの編成が勝利至上主義的発想で行われることのないよう十分留意する。
- 2 学校の統廃合(設置者による学校の廃止及び廃止を伴う複数校の学校の統合で、募集停止を伴うものをいう、以下同じ)に伴う複数校合同チームの大会参加について
  - (1) 学校の統廃合は行政を含む設置者によるものであるので、当該校に在籍する生徒の活動を保障するために統廃合完了前の2年間に限り合同チームを組んで全国高等学校総合体育大会に参加することを認める。
  - (2) 統廃合の予定があっても合同チームを編成せず、単独チームで出場することもできる。これについては学校毎ではなく、部活動ごとに取り扱うものとする。
  - (3) 同一競技において、選手が単独チームと合同チームの両方から大会に出場することはできない。

平成14年3月9日より施行  
平成19年3月3日 改正  
平成25年5月21日 一部改正「募集停止を伴うもの」追記

### 【佐賀県高等学校総合体育大会】

「平成27年度 佐賀県高等学校総合体育大会 開催基準要項」

- 9 大会参加
  - (1) 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。

佐賀県高等学校体育連盟では、合同チームによる大会参加に係る規定の詳細を、統廃合や再編対象校ごとに、平成28年度に検討することとしている。

## 【日本高等学校野球連盟】

### 日本高等学校野球連盟からの諸通達

#### 1 「統廃合による大会参加の特別措置について」(平成9年5月23日通達)

##### (1) 連合チームでの大会参加

ア 統廃合の対象となる関係校であれば、2校以上の連合チームでの大会参加を認める。(地区大会および全国大会を含む)

イ 連合チームは関係校であれば、そのうちの組合せはいつでもよく、2チームに分かれて参加することもできる。適合のチームの組合せ上、人数による制限はしない。(例えば10人以上の場合は単独でなければならないなど)

#### 2 「廃校となる野球部の取扱い」(平成12年6月7日通達)

##### (1) 救済措置の対象となる学校

廃校となることが決定し、生徒募集が打ち切られた学校(分校も含む)で、次の条件下にある者は対象とする。

ア 在校生が2学年以下しかいない場合

イ 登録部員数のうち、試合出場が可能な選手が9人以下となる場合

##### (2) 近隣校の協力

ア 廃校となる学校は、同一市町村内または近隣の市町村にある高等学校の協力により、野球部員の派遣を受け、自校の選手として所属連盟に登録、大会に参加することができる。

イ 近隣校は、原則として合同練習に通常の交通機関を利用して通える範囲とする。など

#### 3 「部員不足による大会参加の特別措置について」(平成24年5月24日通達)

##### (1) 部員不足の連合チームでの大会参加

ア 原則として部員数が不足している(8人以下)2校以上の連合チームでの大会参加を認める。(地区大会および全国大会を含む)

イ 関係校間の距離は問わないが、同一都道府県内の加盟校同士に限定し、原則として週2回程度の合同練習ができることが望ましい。

ウ 適当な相手校が無いなどの理由で連合チームが組めない部員不足校には、単独廃校のルール(平成12.6.7通達文)を適用することも可能とする。

ただし、母体となる部員数不足校の部員は最低5人は在籍しているものとし、他校からの部員を借り入れた後の当該校の部員数は10人を超えないこととする。 など

## 【全国高等学校総合文化祭】

複数校の合同チームとして参加している。

## 全日本吹奏楽連盟

### 【全日本吹奏楽コンクール】

#### 「全日本吹奏楽コンクール実施規定」

第7条 各部門の参加資格は次のとおりとする。ただし、同一人が二つ以上の団体に重複して出場することは認めない。なお、年齢については問わない。

高等学校の部

同一高等学校に在籍している生徒とする。



- 【全日本マーチングコンテスト】 全日本吹奏楽コンクール実施規定と同一  
 【全日本アンサンブルコンテスト】 全日本吹奏楽コンクール実施規定と同一

規定では上記のようにになっているが、九州吹奏楽連盟においては、再編校について、連合チーム又は旧高校・新高校別の何れかの形での参加を認めており、佐賀県吹奏楽連盟も同様の運用となる。(全日本吹奏楽連盟は、九州・佐賀県の下位連盟の決定に従うとしている H28.3.15 聴き取り )

**全日本合唱連盟**

【全日本合唱コンクール】

全日本合唱コンクール全国大会開催規定（平成 25 年 2 月 17 日改訂版）	
第 3 章 出演資格 (各部門の出演合唱団資格)	
第 12 条 各部門の出演合唱団の資格は次のとおりとする。	
( 2 ) 高等学校部門	
同一高等学校に在籍する生徒で編成する合唱団。	
<u>複数高等学校の生徒で編成する合同合唱団で、常時活動し、当該正会員連盟の理事長及び支部長が認めた合唱団。</u>	
同一の中高一貫校に在籍する生徒で編成する合唱団。ただし、中高一貫校として出場する中学生は規定上高校生として扱う	
同一高等学校内から複数の合唱団が出演できる。	
出演団体は同一種別（混声、男声、女声）に 1 回に限り出演できる。	

まとめ

大会		連合チームによる出場	
		学校の統廃合	部員不足
高校総合体育大会	全国	○	×
	地方	○	
高校野球	全国	○	○
	地方	○	○
高校総合文化祭		○	○
吹奏楽コンクール マーチングコンクール アンサンブルコンクール		×	×
合唱コンクール		○	○

佐賀県の場合

- ・ 佐賀県高等学校総合体育大会開催基準要項の中には明記していない。
- ・ 高校総体、新人戦など、今後申し出があれば柔軟に対応したい。
- ・ 過去にラグビーの選手権大会において、佐賀西高校と龍谷高校が合同チームで参加したことがあった。

## 参考資料2 普通科進学校 + 商業科等併置校の他県事例

### 愛媛県立八幡浜高校

#### 1 沿革

1949年 愛媛県立八幡浜商業高等学校・愛媛県立八幡浜第一高等学校・愛媛県立八幡浜第二高等学校が統合。

#### 2 学科・募集定員・在籍者数等

学科	H28 募集定員(人)	志願倍率(H27)	H27.4の在籍者(人)		
			1年	2年	3年
普通科	160	1.01	160	147	156
商業科	40	1.15	40	76	80

(H27 愛媛県全体の倍率 全日制1.00) H24～H26までは普通4、商業2の6学級規模

#### 3 卒業後の状況(平成25年度)

課程	卒業者数	進学者数					就職	その他
		大学		短大		専門学校等		
		国公立	私立	国公立	私立			
普通科	155	56	82	0	2	6	1	8
商業科	118	11	48	1	7	38	12	1
計	273	67	130	1	9	44	13	9

##### (1) 主な合格先

- ・ 国公 筑波大(1)、一橋大(1)、名古屋大(1)、神戸大(1)、愛媛大(18) ...国公合格計71
- ・ 私大・その他 早稲田大(3)、明治大(3)、中央大(2)、同志社大(7)、立命館大(6)...私大計231

##### (2) 就職状況 製造業(3)、卸売・小売業(3)、公務・その他(4)等

#### 4 部活動 体育系14 文化系22 (計36) (H26部活加入率97%)

#### 5 職員数 2学科、6学級(H27より5学級) 240人/学年 - 教員数42人(内講師1人)

#### 6 校時・カリキュラム等

校時 火・水・金は7限授業  
カリキュラム

##### (1) 普通科(2年次に文理選択、3年次に～の類型選択)

- 型：特に国語、地理歴史・公民、英語に重点。3年次にも芸術を選択して履修。私立文系、芸術系の大学進学向け。
- 型：国語、地理歴史・公民、英語の比重が大。数学、理科もバランスよく履修。国公立文系の大学進学向け。
- 型：数学、理科、英語の比重が大。理系の大学進学向け。

朝読書	8:25 ~ 8:35
S HR	8:35 ~ 8:45
1限	8:55 ~ 9:45
2限	9:55 ~ 10:45
3限	10:55 ~ 11:45
4限	11:55 ~ 12:45
昼休み	12:45 ~ 13:25
掃除	13:25 ~ 13:35
5限	13:40 ~ 14:30
6限	14:40 ~ 15:30
7限	15:40 ~ 16:30

##### (2) 商業科

広く商業に関する分野についての知識と技術を習得することにより、将来これらの業務に従事する者としての資質を養成。また、4年制大学、短期大学等への進学にも対応できるように、3年次には、商業科目の他に国語、英語等を選択できるようなカリキュラムになっている。

##### (3) その他

- ・ カリキュラムの総単位数や時間割(校時)は、普通科・商業科とも同じにしており、授業終了時刻を揃え、同じ時間帯に部活動に参加できるようにしている。
- ・ 授業終了時刻を普通科に合わせるために増やした専門科のコマは、資格や検定取得のための時間として有効に活用している。

## 愛媛県立宇和島東高校

### 1 沿革

1949年- 愛媛県立宇和島第一高等学校と愛媛県立宇和島商業高等学校とを統合。普通科・商業科設置。  
1968年- 理数科設置。

### 2 学科・募集定員・在籍者数等

学科	H28 募集定員(人)	志願倍率(H27)	H26.5の在籍者(人)		
			1年	2年	3年
普通科	120	1.00	158	117	124
理数科	40			40	27
商業科	80	1.16	80	79	77
情報ビジネス科	40	0.78	40	40	39

(H27 愛媛県全体の倍率 全日制 1.00) 理数科は2年次より、理系の上位者により編成

### 3 卒業後の状況

卒業年	国公立大合格数	私大合格数	専門学校等	就職
H27.3	92	235	データなし	26
H26.3	105	317		18

#### (1) 主な合格先(平成27年度)

- ・ 国公 北海道大(3)、大阪大(1)、神戸大(2)、愛媛大(18)、高知大(6)、香川大(6)等
- ・ 私大・その他 松山大、阪南大、京都女子大、神戸学院大、立命館大、同志社大、関西大等

#### (2) 就職状況 トヨタ自動車、四国旅客鉄道、西四国マツダ、JA愛媛南、大垣共立銀行等

### 4 部活動 体育系 17 文化系 28 (計 45)

### 5 職員数 3学科、7学級(3年生は8学級)、280人/学年 - 教員数55人(内講師1人)

### 6 校時・カリキュラム等

校時 普通科・理数科は月・火・水・木が7限授業、商業科は火・木が7限授業

#### カリキュラム

#### (1) 普通科(H25~H29 SSH認定)

2年次より 型(文型) 型(理系)に分かれ、大学の各種学部・学科やコースに対応できるよう配慮。

#### (2) 理数科(H25~H29 SSH認定)

- ・ 2年次より、理系の上位者により編成。
- ・ 理科・数学の学習を重点的に行い、大学の理工系学部や医・歯・薬系学部への進学に対応できるよう配慮。
- ・ 医療系学部への進学希望者には、生命倫理に関する講座を開設し、小論文指導や面接指導を行う。

S H R	8:35 ~ 8:45
1限	8:55 ~ 9:45
2限	9:55 ~ 10:45
3限	10:55 ~ 11:45
4限	11:55 ~ 12:45
昼休み	12:45 ~ 13:30
掃除	13:30 ~ 13:40
5限	13:45 ~ 14:35
6限	14:45 ~ 15:35
7限	15:45 ~ 16:35

#### (3) 商業科

- ・ 商業科では、商業に関する知識と技術を習得させ、経済社会の発展に寄与する能力と態度を育てる。
- ・ 情報ビジネス科では、情報通信に関する知識と技術を習得させ、ビジネスの場において情報を活用する能力と態度を育てる
- ・ 多様な進路希望に対応し、就職や専門学校・私立大学進学に適した 型と、国公立四年制大学進学に適した 型を設定。

#### (4) その他

- ・ 普通科と商業科では単位数が異なる(普通科7限、商業科 進学7限・就職6限)が、普通科と商業科の部活動時間のズレは、生徒たちは特に気にする様子はないとのこと。(学校聞き取り)

## 新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日  
佐賀県教育委員会教育長決定  
一部改正 平成17年4月 1日  
一部改正 平成18年7月12日  
一部改正 平成21年4月 1日  
一部改正 平成27年4月 1日

## (設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

## (所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
  - 二 新高校の施設・設備に関すること
  - 三 新高校への円滑な移行に関すること
  - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

## (組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

## (会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

## (事務局)

- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

## (補足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校

資料8 鹿島地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考			
1	鹿島高等学校 校長	角 敬一郎	委員長・学校関係者			
2	鹿島実業高等学校 校長	渡辺 孝一	副委員長・学校関係者			
3	鹿島高等学校 教頭	今田 康光	学校関係者			
4	鹿島実業高等学校 教頭	中島 淳				
5	鹿島市教育長	江島 秀隆	鹿島市	市町関係者		
6	鹿島市総務部長	橋村 勉				
7	嬉野市教育長	杉崎 士郎	嬉野市			
8	白石町教育長	北村 喜久次	白石町			
9	太良町教育長	松尾 雅晴	太良町			
10	鹿島高等学校 同窓会代表	矢野 善紀	地元関係者			
11	鹿島実業高等学校 同窓会代表	小池 幸照				
12	鹿島高等学校 PTA代表	岡田 和人				
13	鹿島実業高等学校 PTA代表	藤永 一男				
14	鹿島市立西部中学校長	白仁田 茂	中学校関係者			
15	鹿島市立東部中学校長	植松 正鋼				
16	教育政策課	八谷 幸浩	県教委関係者			
17	教育情報課長	碓 浩一				
18	教職員課長	福地 昌平				
19	学校教育課長	松尾 敏実				
20	保健体育室長	三上 智一				
21	教育支援課長	源五郎丸 靖				
22	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章				
23	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰				
事務局	鹿島高等学校教諭	久野 直樹			事務局	
	鹿島実業高等学校教諭	梶原 圭介				
	県立高校再編整備推進室 企画主査	椛島 秀樹				
	県立高校再編整備推進室 企画主査	高山 裕樹				

